

応用生態工学会 2025 第 28 回新潟大会エクスカージョン

- 越後平野の生態系ネットワークを「歩いて、見て、食べて、体感する」-

【開催趣旨】大会開催地の新潟市は、大河川・信濃川と阿賀野川の下流域に位置します。かつて北前船の寄港地であった新潟の湊（みなと）には、信濃川・阿賀野川流域で育まれたお米が集積し、交易の要として発展しました。しかし、越後平野は海拔ゼロメートルにちかい低平地であることから水はけがわるく、胸や腰まで水に浸かり、木舟をつかって稲狩りをするなど米作りも重労働でした。大雨による河川の氾濫に苦しめられてきました越後平野ですが、こうした困難を克服するため、江戸時代から続いた大規模な土木事業（新潟湊の開港、信濃川と阿賀野川の河口域の分離、萬代橋、大河津・関屋分水の建設等）、そして数多くの農地排水対策が進められました。これにより越後平野は大穀倉地帯へと発展し、湊町新潟の繁栄を支えました。一方で新潟市やその周辺には福島潟や鳥屋野潟など潟が点在し、冬には多くのハクチョウ類やガン類が飛来する、豊かな生態系が今も残されています。

今回のエクスカージョンは前日のシンポジウムの議論を引き継ぎ、現地視察および「えちごエコネット活用部会」の取り組みを知ることにより、生態系ネットワーク形成の科学的意義とそれを用いた地域づくりについて理解することを目的とします。お昼には、潟の産物を使用した「潟弁当」を味わい、生態系ネットワーク形成により産み出される水辺資源の魅力を「食」として体験していただきます。午後のトークセッションでは福島潟や瓢湖の活用事例が鳥類の話題とともに紹介され、参加者全員で「えちごエコネット」の未来について語り合います。

水都新潟のシンボルである「萬代橋」を起点に、信濃川・阿賀野川をめぐるエクスカージョン、奮ってご参加ください。

- ・開催日時：2025年9月14日（日） 8：30集合～16：45解散
- ・視察箇所：午前 ①信濃川やすらぎ堤、②阿賀野川自然再生事業（浅場の再生、連続性確保）
③環境保全農業の取り組み（宮尾農園自然農法・有機農法）、④福島潟河川改修事業（潟水面の拡張）
昼食 ビュー福島潟6階で昼食会：潟の恵みを味わう「潟弁当」を食べ
午後 ビュー福島潟 6F：公開トークセッション「みんなで考える『えちごエコネット』と福島潟エリアの未来」
- ・集合場所：萬代橋 右岸（新潟駅側）上流側
- ・昼食場所：ビュー福島潟
- ・募集人数：35名（申し込み先着順）
- ・参加費：一般6,000円 学生5,000円（潟弁当2,000円、ビュー福島潟入館料含む）
- ・現地解説：山崎憲人（北陸地方整備局）、吉田亮（新潟県）、宮尾浩史（宮尾農園）
- ・トークセッション：えちごエコネット 関島恒夫（新潟大学）、藤田美幸（新潟国際情報大学）、佐藤安男（新潟県水鳥湖沼ネットワーク）、土井一心太（瓢湖白鳥観察舎販売組合）、えちごエコネット事務局（北陸地方整備局、（公財）日本生態系協会）

公開トークセッション

タイトル：みんなで考える「えちごエコネット」と福島潟エリアの未来
～福島潟エリアから広がる越後平野の生態系ネットワーク～

日時：2025年9月14日(日) 14:00～15:45

会場：ビュー福島潟6F 展望ホール

対象：応用生態工学会会員・一般市民

時間	内容	備考
第1部		
14:00 ～ 14:10 (10分)	開会挨拶・趣旨説明	司会進行：北陸地方整備局 挨拶＋趣旨説明 関島恒夫（新潟大学）
14:10 ～ 14:20 (10分)	プレゼンテーション1	国交省の取組のまとめ 福島潟モデルプロジェクトの紹介 えちごエコネット事務局 （北陸地方整備局・(公財)日本生態系協会）
14:20 ～ 14:30 (10分)	プレゼンテーション2	福島潟の利活用の取組 佐藤安男氏 （新潟県水鳥湖沼ネットワーク 事務局長）
14:30 ～ 14:40 (10分)	プレゼンテーション3	瓢湖の利活用の取組 土井一心太氏 （瓢湖白鳥観察舎販売組合 代表理事）
14:40 ～ 14:50 (10分)	（休憩）	
第2部		
14:50 ～ 15:40 (50分)	パネルディスカッション 質疑応答・意見交換	福島潟とえちごエコネットの未来を語る ファシリテーター：藤田美幸（新潟国際情報 大学）
15:40 ～ 15:45 (5分)	閉会挨拶	